臨床検査学教育　第 13 巻　補冊（2022 年 8 月 1 日　発行）　ISSN 1883-3144

臨床検査学教育

JAPANESE JOURNAL OF MEDICAL TECHNOLOGY EDUCATION

第16回 日本臨床検査学教育学会学術大会　抄録集

- ●会　　期　令和4年8月18日㈭・19日㈮
- ●会　　場　埼玉医科大学 日高キャンパス
  創立30周年記念講堂、保健医療学部棟
- ●テ　ー　マ　つなげよう、ひろげよう、臨床検査学教育
- ●大　会　長　茅野 秀一（埼玉医科大学）
- ●副 大 会 長　戸田 好信（天理医療大学）
- ●実行委員長　佐藤 正夫（埼玉医科大学）
- ●担　当　校　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

日本臨床検査学教育学会　Vol. 13 Supp. 2022

第16回日本臨床検査学教育学会学術大会開催にあたり

第16回日本臨床検査学教育学会学術大会
大会長　茅野 秀一（埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科）

此度、第16回日本臨床検査学教育学会学術大会を埼玉県日高市の埼玉医科大学日高キャンパスで開催いたします。伝統ある本学術大会を担当する機会に恵まれたことを大変光栄に存じております。新型コロナウィルス感染の状況はいまだ出口が見えませんが、今大会では対面開催の実施を大きな目標としたため、会期を2日間としました。開催にあたっては適切な感染対策を講じることは勿論ですが、参加の皆様におかれましては継続して体調管理をお願いいたします。

今回のテーマは「つなげよう、ひろげよう、臨床検査学教育」です。2022年度の新入生から適用となる臨床検査技師養成の新カリキュラムでは、様々な整理・変更が加えられました。中でも臨地実習では病院の検査部門以外の場での実習も求められ、私たちが実習施設の諸部門や他の養成校と「つながり」、有機的な教育を「ひろげる」ことが大切と考えた次第です。

本学術大会の企画として、1日目は日本臨床検査学教育協議会 坂本秀生理事長から基調講演「動き出した新カリキュラム」のお話をいただきます。教育シンポジウム「新しい臨地実習～指導者講習会を中心として～」では「制度改革の必要性」、「臨床現場からの視点」、「グループワーク講習会調整者の経験から」についてご発言をいただき、指導者講習会を中心とした新しい臨地実習の現況とこれからについて理解を深めたいと考えています。2日目では、ワークショップ「臨地実習前技能修得到達度評価のレイアウト設計」において形態の多様な臨床検査技師養成校に応じた技能評価のプランをご紹介いただき、医学部OSCEを例にレイアウト設計のための考え方も参考にしたいと思います。

一般演題では127演題のご応募をいただきました。1日目午後に教員セッション（23演題）、大学院生セッション（49演題）を、2日目午前に学部生セッション（55題）を行いますので活発なご議論をお願いいたします。そのほか教員向けランチョンセミナーは1日目に「キャリア支援への取り組み」を、2日目に実習前技能評価外部評価者養成のポイント」を開催いたします。学生向けにも企画を準備しております。

本学術大会が、皆様にとって有意義な会となるよう準備・運営することに大きな責務を感じております。新たな出会い、発見、そして感動をもたらす場となるようとしたいと思っています。ひとりでも多くの方のご参加を心よりお待ち申し上げております。

日本臨床検査学教育学会学術大会

年次別開催一覧

回数	会　期	大会長（所属）	会　場
1	平成18年 8月23日～25日	三村　邦裕 （千葉科学大学）	東京医科歯科大学
2	平成19年 8月27日～29日	加藤　亮二 （香川県立保健医療大学）	香川県県民ホール
3	平成20年 8月20日～22日	大澤　進 （九州大学）	九州大学医学部 百年講堂
4	平成21年 8月19日～21日	佐藤　健次 （東京医科歯科大学）	東京医科歯科大学
5	平成22年 8月18日～20日	木田　和幸 （弘前大学）	弘前大学大学院保健研究科
6	平成23年 8月17日～19日	渡邊　正友 （新潟医療技術専門学院）	新潟大学医学部保健学科
7	平成24年 8月22日～24日	寺平　良治 （藤田保健衛生大学）	名古屋国際会議場
8	平成25年 8月26日～28日	岩谷　良則 （大阪大学）	大阪大学 コンベンションセンター
9	平成26年 8月20日～22日	山藤　賢 （昭和医療技術専門学校）	東京都大田区産業プラザ
10	平成27年 8月19日～21日	奥村　伸生 （信州大学）	信州大学医学部 地域保健推進センター
11	平成28年 8月31日～9月2日	坂本　秀生 （神戸常盤大学）	神戸常盤大学 神戸国際展示場
12	平成29年 8月23日～25日	松下　誠 （埼玉県立大学）	埼玉県立大学
13	平成30年 8月17日～19日	山口　博之 （北海道大学）	北海道大学 学術交流会館
14	令和元年 8月21日～23日	古閑　公治 （熊本保健科学大学）	熊本保健科学大学
15	令和3年 8月18日・19日	秋山　秀彦 （藤田医科大学）	Web 開催
16	令和4年 8月18日・19日	茅野　秀一 （埼玉医科大学）	埼玉医科大学 日高キャンパス

第16回日本臨床検査学教育学会学術大会

日　　程　2022年（令和4年）8月18日（木）～8月19日（金）

会　　場　埼玉医科大学 日高キャンパス
創立30周年記念講堂、保健医療学部棟

担 当 校　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

大 会 長　茅野 秀一（埼玉医科大学）

副大会長　戸田 好信（天理医療大学）

実行委員長　佐藤 正夫（埼玉医科大学）

学会テーマ　つなげよう、ひろげよう、臨床検査学教育

主　　催　一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会

後　　援　厚生労働省
文部科学省
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

事 務 局　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科内
〒350－1241　埼玉県日高市山根1397－1

参加者のみなさまへ

- 以下の事項に該当する場合は来場をお控えください。
  ① 体調が優れない場合（例：37.5℃ 以上の発熱・咳・咽頭痛・感冒症状）
  ② 同居家族・身近な知人に COVID-19 感染が疑われる方がいる場合
- ご来場の際は入り口に設置した非接触型検温器による検温をお願いします。
- マスクを必ず着用の上、ご来場ください。大声での会話等はお控えください。
- 参加受付は埼玉医科大学創立30周年記念講堂1階総合受付でお済ませください。
  受付時間：8月18日10：00～18：00　評議員は直接評議員会会場へお越しください。
  8月19日9：00～15：30
- 参加費は以下の通りです。
  協議会加盟校教員（学術会員登録者）：10,000円
  協議会加盟校以外の日本臨床衛生検査技師会会員：3,000円（要会員証提示）
  学生（大学院生を含む）：2,000円（要学生証提示）
  上記以外の参加者：12,000円
  事前登録の方は抄録集を受付でひとり1冊配布いたします。
  事前登録以外の方、および抄録集が追加で必要な方は1冊1,100円（税込）で販売いたします。
- 会場内では、参加証を必ず見えるところにお付けください。
- 会場までの詳細については会場アクセス図でご確認ください。
- 公共交通機関でお越しください。来場者向け駐車場はございません。
- 企業展示・休憩コーナーは、記念講堂2階講義室です。ご利用ください。
- クロークは、記念講堂1階です。貴重品は各自お持ちください。日をまたいでお預かりすることはできません。各日のクローク終了時間までに、速やかに荷物をお引き取りください。
- 救護等が必要な場合には、大会本部・総合受付、またはお近くの係員にお申し出ください。
- 本学構内（校舎内だけではなく、バス停および大学構内に隣接の道路も含みます）は全面禁煙です。ご協力をお願いします。

情報交換会について

- 今回は行いません。

昼食のご案内について

《8月18日（木）、19日（金）ランチョンセミナー（教員のみ）について》

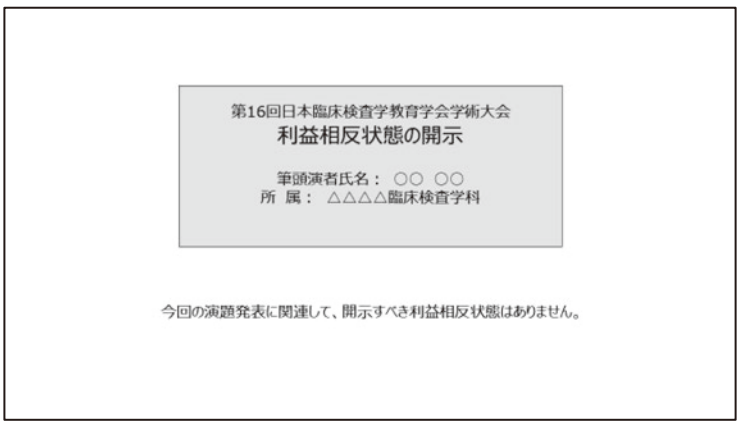
- 事前登録時にランチョンセミナーの参加登録をされた教員に、お弁当をお渡しいたします。
- お弁当は、第1会場（記念講堂）ホール入り口にて、登録状況が記載された参加証を確認のうえお渡しいたします。第1会場内でお召し上がりください。
- 事前登録締切後のお弁当の希望はお受けできません。

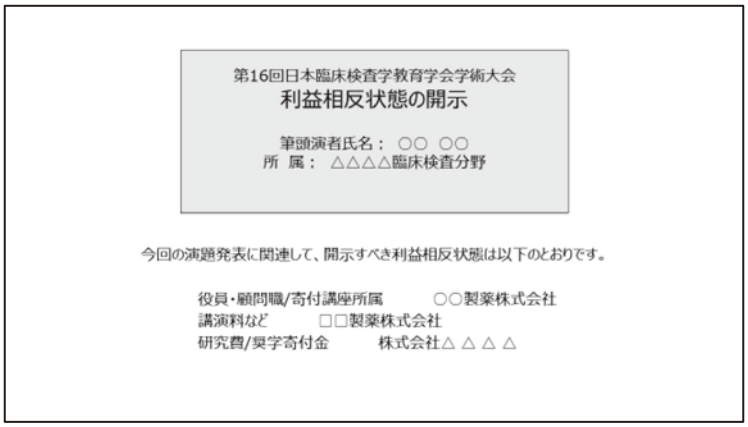
《ランチョンセミナー参加者以外の方のお食事について》

- 学生ホール（オスラーホール）で昼食（軽食）の販売がございます。
- お食事場所は休憩コーナー（記念講堂2階）もしくは学生ホール（オスラーホール）をご利用ください。
- 近隣の飲食店事情が良くないため、教員の方は事前登録にてランチョンセミナーへの参加をお願い致します。
- COVID-19感染対策により隣接する国際医療センター・職員食堂および当大学構内のコンビニエンスストアの利用は病院職員のみとさせていただいております。ご理解とご協力のほどお願いいたします。

発表者のみなさまへ

- 講演会場にはWindows10（64bit）のPCを用意いたします。
- 使用できるアプリケーションソフトはMicrosoft PowerPoint 2013です。スライドサイズはワイド画面（16：9）で作成してください。
- 上記の対応アプリケーションソフト以外でPC発表データを作成した場合やMacintoshご使用の方は、必ず上記環境にて動作確認の上データをお持ち込みください。
- ご自身のパソコンを持ち込んでの発表はお断り致します。
- スライドの枚数に制限はありません。また、動画ファイル等につきましては動作保障できかねます。
- 利益相反の自己申告は発表スライドの1枚目（タイトルスライド）の後、2枚目に以下の様なCOI開示スライドを入れて、開示してください。





- 画像レイアウトの崩れを防ぐため、使用フォントは Windows OS に標準装備されている「MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Times New Roman、Century、メイリオ」を推奨します。
- 発表スライドは、すべて USB フラッシュメモリーに保存してご持参ください。
- USB フラッシュメモリーは、事前にウイルスチェックをご自身で済ませて来てください。
- ファイル名には演題番号と発表者名をご記入ください。
- リンクデータ（静止画、グラフなど）を用いる場合は、演題番号と発表者名をフォルダ名とし、発表データおよびリンクデータ全てを入れたフォルダを動作確認 PC にコピーしてください。
- 発表時には必ずバックアップデータをお持ちください。発表の際、データに問題が生じた場合、メディアの提出をお願いすることがあります。
- 発表のためにコピーしたデータは、会期終了後に運営事務局にてすべて消去します。

《発表に関するご案内》

■一般演題（8月18日14：50～17：00、8月19日10：00～12：00）

- PC センターの開設時間は、18日（木）10：00～17：00、19日（金）9：00～12：00です。
- ご発表1時間前までに必ず PC センター（記念講堂2階）で発表スライドファイルを保存し、動作確認をお願いします（学会担当者がサポートいたします）。
- 発表の15分前までに各会場内前方の次演者席にご着席ください。
- 教員および学生演題の発表時間は、発表7分、質疑応答3分となります。発表終了時間1分前に1回、終了時に2回、質疑応答時間終了時に3回、合図をさせていただきます。時間厳守での発表をお願いいたします。
- 演台上のキーボード、マウス、レーザーポインターを操作してプレゼンテーションを行ってください。

■基調講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、ワークショップ（第1会場）

- 別途ご案内いたします。

司会・座長のみなさまへ

- ご担当のセッション開始15分前までに会場内の次座長席にご着席ください。
- ご担当時間になりましたら、司会・座長席にご着席ください。
- 教員および学生の一般演題発表時間は、発表7分、質疑応答3分になります。発表終了時間1分前に1回、終了時に2回、質疑応答時間終了時に3回、合図をさせていただきます。
- 時間厳守での発表、速やかな進行に、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

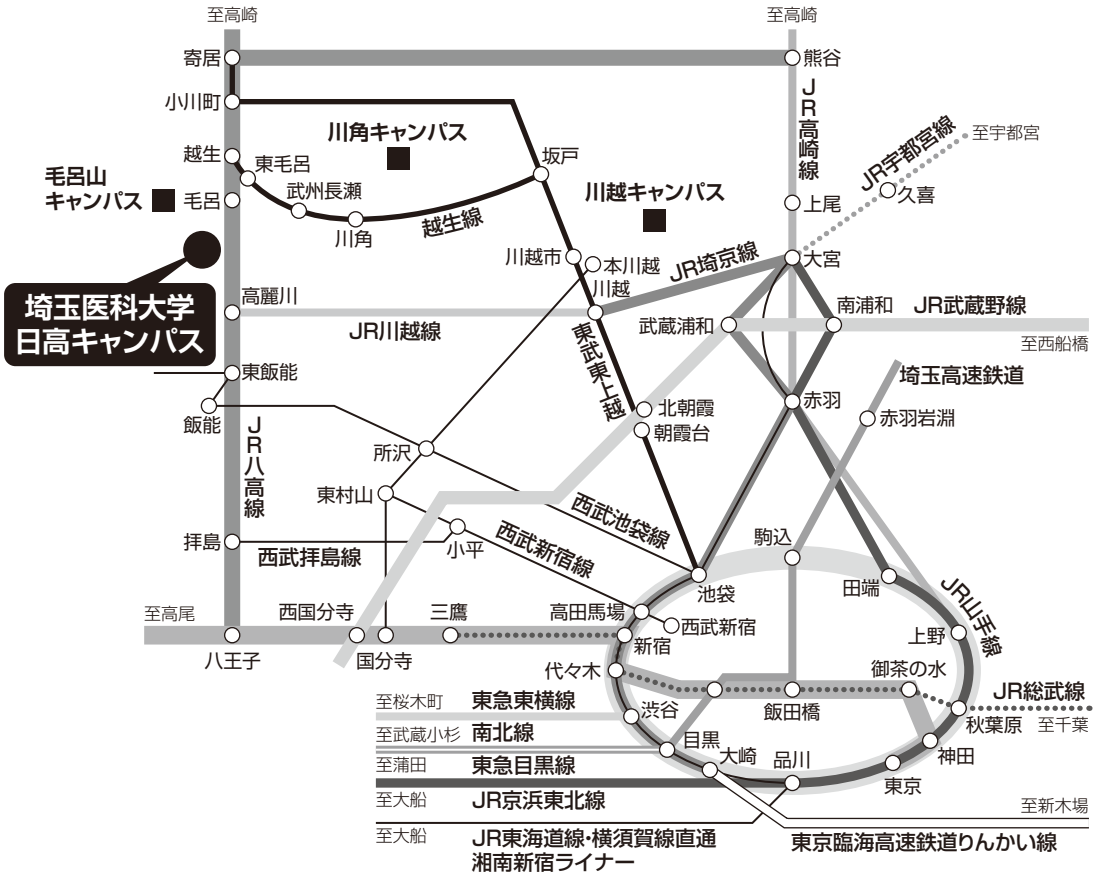
優秀発表賞について

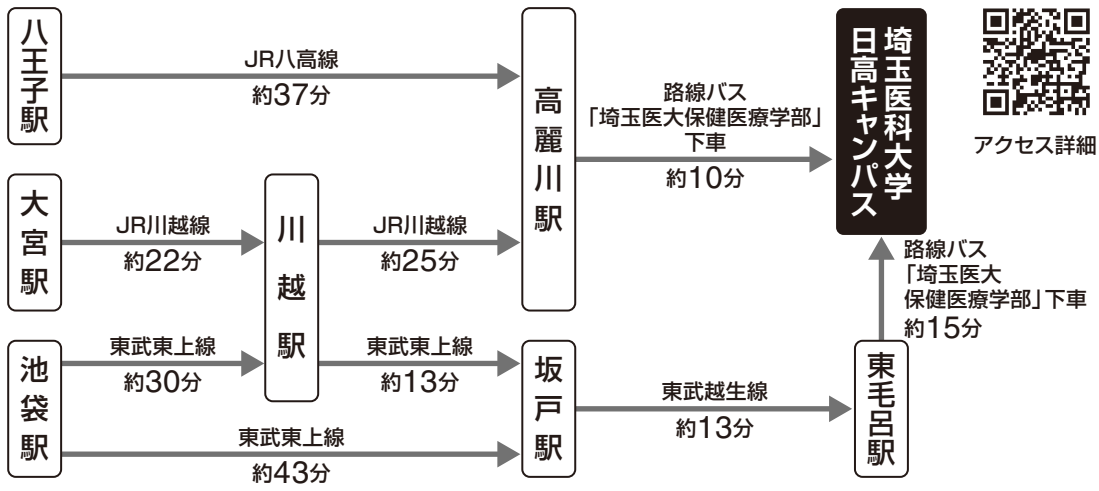
- 学生の発表に対し、教育効果を高めることを目的に優秀発表賞を設けました。
- 優秀な発表を行った大学院生、学部生の各3名に優秀発表賞を授与します。
- 大学院生の受賞者は8月19日の午前中に総合受付に掲示致します。
- 選考は、構成、語句、声の大きさ・明瞭さ・スピード、質疑応答、スライドの完成度・美しさ、質疑応答の的確さ、を含む各項目について、審査員の評価を集計して行います。
- 表彰式は8月19日に第1会場（記念講堂）で行う閉会式（15：10～15：30）にて行います。

科目別分科会について

- 科目別分科会は、協議会主催となります。詳細については協議会より連絡があり次第、後日、学会ホームページ等でアナウンスさせていただきます。

会場アクセス図


至高崎
至高崎
寄居
熊谷
小川町
川角キャンパス
越生
東毛呂
坂戸
毛呂山
キャンパス
毛呂
武州長瀬
川角
越生線
川越キャンパス
JR高崎線
JR宇都宮線
至宇都宮
久喜
上尾
川越市
本川越
川越
JR埼京線
大宮
埼玉医科大学
日高キャンパス
高麗川
JR川越線
東武東上線
武蔵浦和
南浦和
JR武蔵野線
至西船橋
東飯能
埼玉高速鉄道
飯能
北朝霞
朝霞台
赤羽
赤羽岩淵
JR八高線
所沢
東村山
西武池袋線
拝島
西武拝島線
小平
西武新宿線
駒込
池袋
田端
JR山手線
至高尾
西国分寺
三鷹
高田馬場
西武新宿
新宿
上野
八王子
国分寺
代々木
御茶の水
JR総武線
至桜木町
東急東横線
渋谷
飯田橋
秋葉原
至千葉
至武蔵小杉
南北線
目黒
大崎
品川
神田
至蒲田
東急目黒線
東京
至大船
JR京浜東北線
至新木場
至大船
JR東海道線・横須賀線直通
湘南新宿ライナー
東京臨海高速鉄道りんかい線

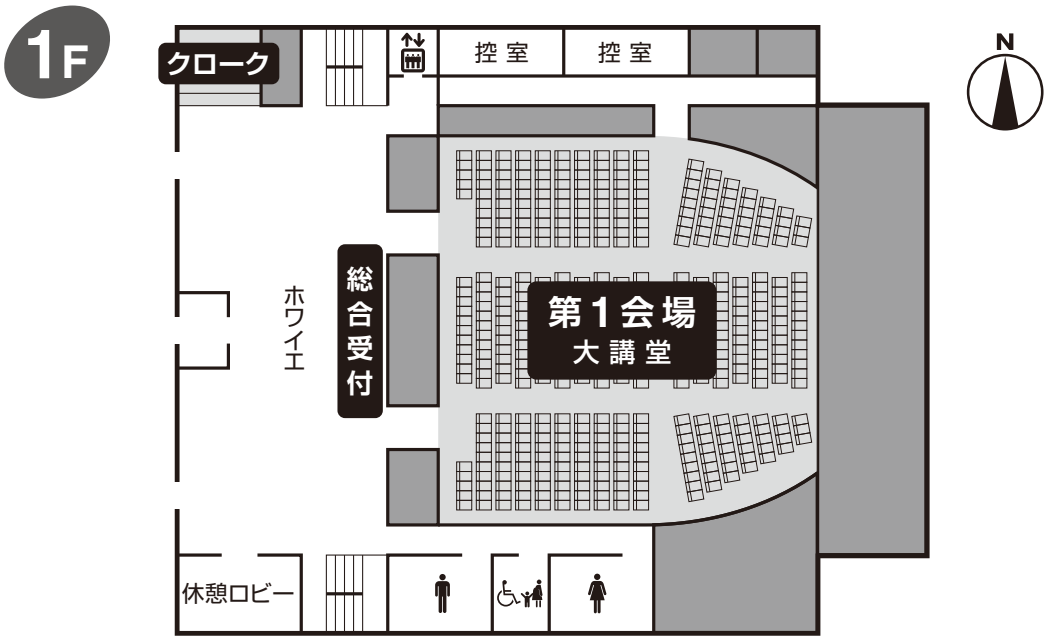

八王子駅
JR八高線
約37分
高麗川駅
路線バス
「埼玉医大保健医療学部」
下車
約10分
埼玉医科大学
日高キャンパス
アクセス詳細
大宮駅
JR川越線
約22分
川越駅
JR川越線
約25分
路線バス
「埼玉医大
保健医療学部」下車
約15分
池袋駅
東武東上線
約30分
東武東上線
約13分
坂戸駅
東武越生線
約13分
東毛呂駅
東武東上線
約43分

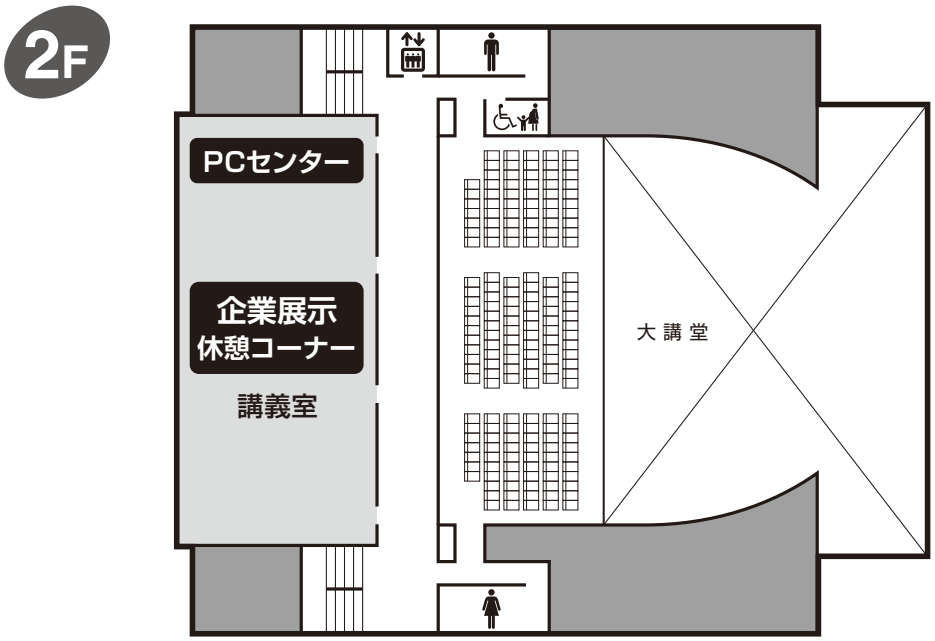
会場構内図

県道30号線
至毛呂
（毛呂山キャンパス）
N
ロータリー
国際医療
センター
管理棟
教育研究棟
教員研究棟
テレサホール
ゲノム医学研究センター
至高麗川
保健医療学部棟
オスラーホール
（学生ホール）
昼食の販売・休憩
バスロータリー
創立30周年記念講堂
参加者出入口
学会参加者は
こちらの入口を
ご利用下さい
EV

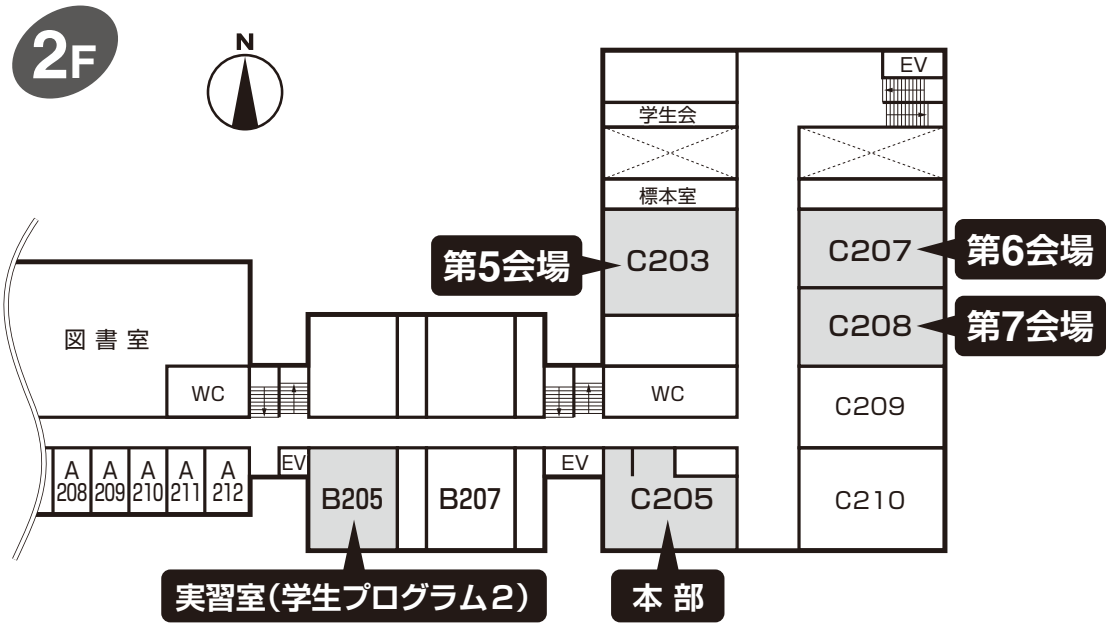
会場案内図

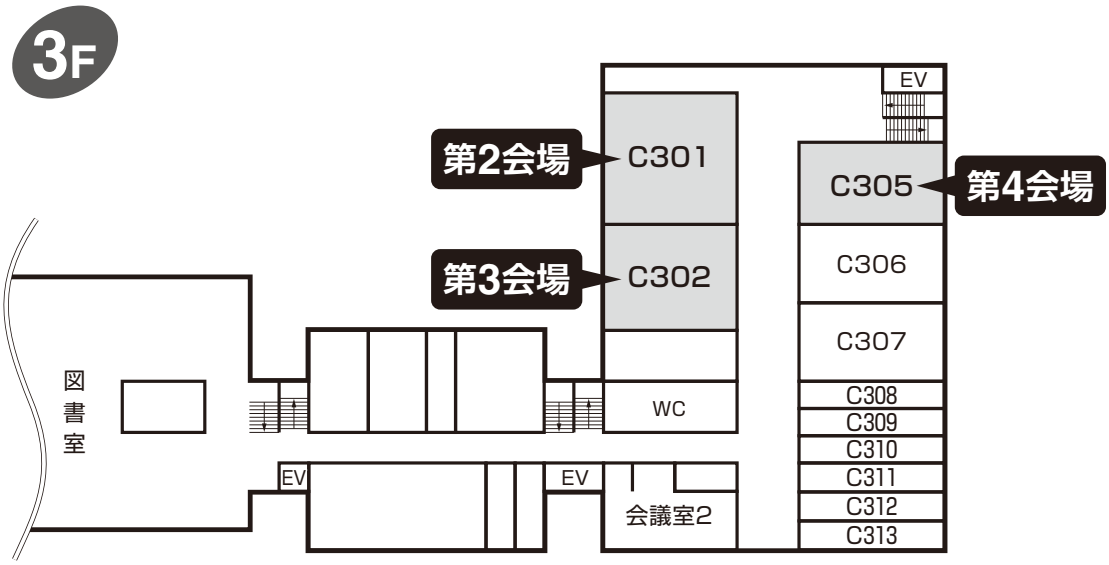
創立30周年記念講堂



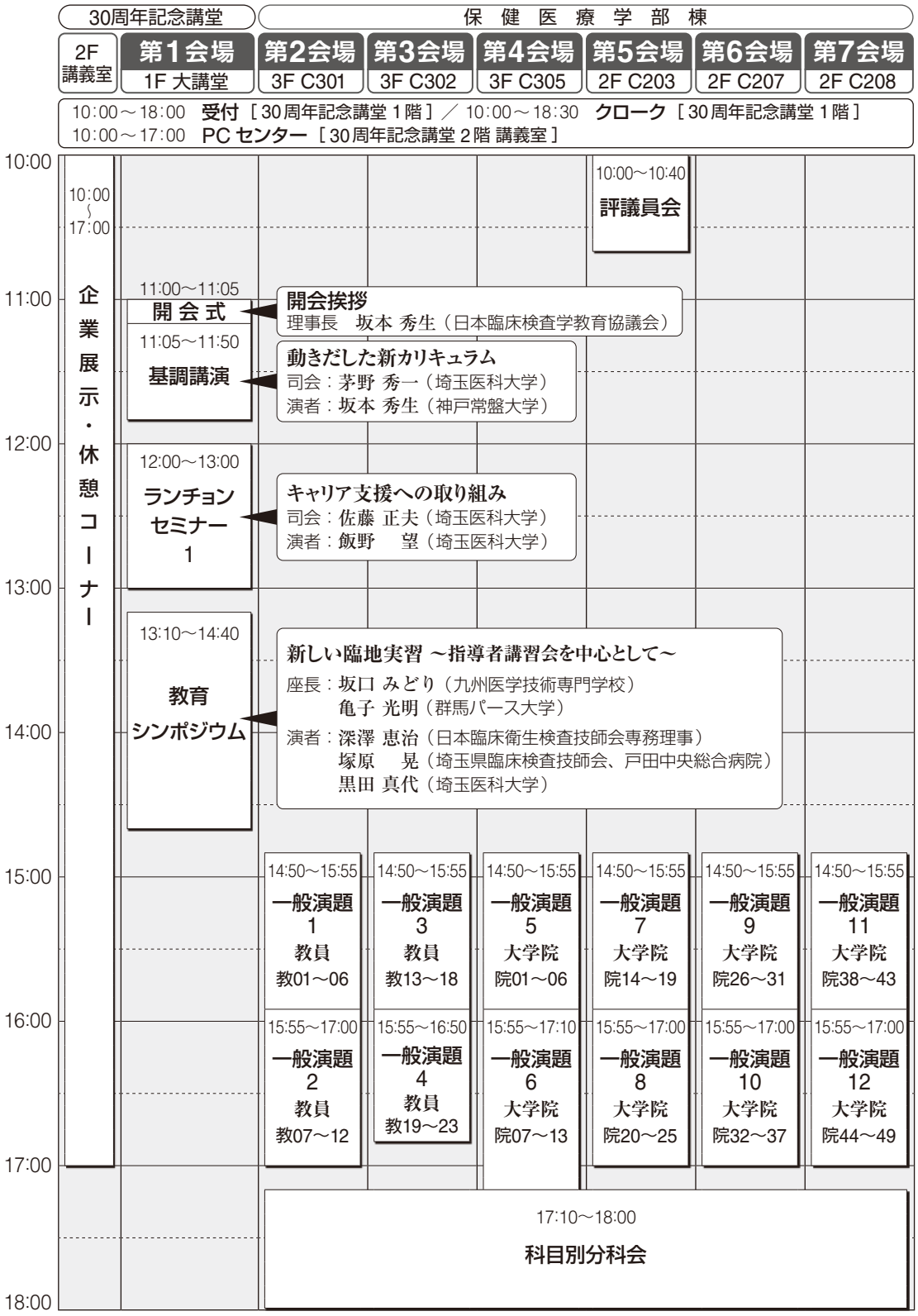


保健医療学部棟


2F
N
EV
学生会
標本室
第5会場
C203
C207
第6会場
C208
第7会場
図 書 室
WC
WC
C209
A 208
A 209
A 210
A 211
A 212
EV
B205
B207
EV
C205
C210
実習室（学生プログラム2）
本 部


3F
EV
第2会場
C301
C305
第4会場
第3会場
C302
C306
C307
図書室
WC
C308
C309
C310
C311
C312
C313
EV
EV
会議室2

1日目　8月18日(木)　会場：埼玉医科大学 日高キャンパス



2日目 8月19日金 会場：埼玉医科大学 日高キャンパス

30周年記念講堂 2F 講義室

保健医療学部棟

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	実習室
1F 大講堂	3F C301	3F C302	3F C305	2F C203	2F C207	2F B205

9:00～15:30 **受付**［30周年記念講堂 1階］／9:00～16:00 **クローク**［30周年記念講堂 1階］
9:00～12:00 **PC センター**［30周年記念講堂 2階 講義室］

9:00～15:30 **企業展示・休憩コーナー**

10:00～11:05 **一般演題 13** 学部 学01～06
11:05～12:00 **一般演題 14** 学部 学07～11

10:00～11:05 **一般演題 15** 学部 学12～17
11:05～12:00 **一般演題 16** 学部 学18～22

10:00～11:05 **一般演題 17** 学部 学23～28
11:05～12:00 **一般演題 18** 学部 学29～33

10:00～11:05 **一般演題 19** 学部 学34～39
11:05～12:00 **一般演題 20** 学部 学40～44

10:00～11:05 **一般演題 21** 学部 学45～50
11:05～12:00 **一般演題 22** 学部 学51～55

12:10～13:10 **ランチョンセミナー 2**

医学部卒前臨床教育における OSCE の現状と認定評価者養成
－実習前技能修得度評価の実施に向けて－
司会：佐藤 正夫（埼玉医科大学）
演者：辻 美隆（埼玉医科大学）

12:30～14:30 **学生向けプログラム 1**

13:20～15:00 **ワークショップ**

実習前技能修得到達度評価のレイアウト設計
座長：野島 順三（山口大学）
水上 紀美江（湘央医学技術専門学校）
演者：井上 聡子（東洋公衆衛生学院）
有竹 清夏（埼玉県立大学）
長塩 亮（北里大学）
荒関 かやの（埼玉医科大学）

12:30～14:30 **学生向けプログラム 2**

15:10～15:30 **閉会式**

優秀発表者表彰
大会長スピーチ
つなげよう、ひろげよう、臨床検査学教育
演者：茅野 秀一（埼玉医科大学）
次期大会長挨拶 戸田 好信（天理医療大学）
閉会挨拶 理事長 坂本 秀生（日本臨床検査学教育協議会）

一般演題 座長一覧

日	セッション	時 間	会 場	座 長
8月18日（木）	一般演題セッション1（教員）教01－06	14：50～15：55	第2会場（保健医療学部棟 C301）	高崎 昭彦（四日市看護医療大学）
	一般演題セッション2（教員）教07－12	15：55～17：00		中前 雅美（京都保健衛生専門学校）
	一般演題セッション3（教員）教13－18	14：50～15：55	第3会場（保健医療学部棟 C302）	栗原 由利子（東京工科大学）
	一般演題セッション4（教員）教19－23	15：55～16：50		伊藤 恵子（国際医療専門学校）
	一般演題セッション5（大学院）院01－06	14：50～15：55	第4会場（保健医療学部棟 C305）	吉田 祥子（東京工科大学）
	一般演題セッション6（大学院）院07－13	15：55～17：10		古閑 公治（熊本保健科学大学）
	一般演題セッション7（大学院）院14－19	14：50～15：55	第5会場（保健医療学部棟 C203）	齋藤 良一（東京医科歯科大学）
	一般演題セッション8（大学院）院20－25	15：55～17：00		大瀧 博文（関西医療大学）
	一般演題セッション9（大学院）院26－31	14：50～15：55	第6会場（保健医療学部棟 C207）	中島 一敏（大東文化大学）
	一般演題セッション10（大学院）院32－37	15：55～17：00		只野 智昭（大東文化大学）
	一般演題セッション11（大学院）院38－43	14：50～15：55	第7会場（保健医療学部棟 C208）	林 由里子（群馬パース大学）
	一般演題セッション12（学部）院44－49	15：55～17：00		大川 龍之介（東京医科歯科大学）
8月19日（金）	一般演題セッション13（学部）学01－06	10：00～11：05	第2会場（保健医療学部棟 C301）	木村 文一（信州大学）
	一般演題セッション14（学部）学07－11	11：05～12：00		関 貴行（日本医療科学大学）
	一般演題セッション15（学部）学12－17	10：00～11：05	第3会場（保健医療学部棟 C302）	瀧上 周（杏林大学）
	一般演題セッション16（学部）学18－22	11：05～12：00		目黒 玲子（新潟大学）
	一般演題セッション17（学部）学23－28	10：00～11：05	第4会場（保健医療学部棟 C305）	伊藤 さやか（埼玉県立大学）
	一般演題セッション18（学部）学29－33	11：05～12：00		八巻 明子（杏林大学）
	一般演題セッション19（学部）学34－39	10：00～11：05	第5会場（保健医療学部棟 C203）	山口 博之（北海道大学）
	一般演題セッション20（学部）学40－44	11：05～12：00		市野 直浩（藤田医科大学）
	一般演題セッション21（学部）学45－50	10：00～11：05	第6会場（保健医療学部棟 C207）	關谷 暁子（北陸大学）
	一般演題セッション22（学部）学51－55	11：05～12：00		福島 亜紀子（女子栄養大学）

8月18日（木） 会場：埼玉医科大学 日高キャンパス

10：00～10：40 **評議員会**（第5会場：保健医療学部棟 C203）

第1会場：創立30周年記念講堂 1階

11：00～11：05 **開 会 式**

開会挨拶 理事長 坂本 秀生（一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会）

11：05～11：50 **基調講演**

司会：茅野 秀一（埼玉医科大学）

動き出した新カリキュラム

坂本 秀生（一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会 理事長、
神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科）

12：00～13：00 **ランチョンセミナー1**

司会：佐藤 正夫（埼玉医科大学）

キャリア支援への取り組み

飯野 望（埼玉医科大学）

13：10～14：40 **教育シンポジウム**

座長：坂口 みどり（九州医学技術専門学校）
亀子 光明（群馬パース大学）

［ 新しい臨地実習～指導者講習会を中心として～ ］

S-1 制度改革の必要性

深澤 恵治（一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 専務理事）

S-2 臨床現場からの視点

塚原 晃（公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会、医療法人社団東光会 戸田中央総合病院）

S-3 グループワーク講習会調整者の経験から

黒田 真代（埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科）

第2会場：保健医療学部棟 C301

14：50～15：55　一般演題セッション1（教員）（教01-06）
15：55～17：00　一般演題セッション2（教員）（教07-12）

17：10～18：00　科目別分科会

第3会場：保健医療学部棟 C302

14：50～15：55　一般演題セッション3（教員）（教13-18）
15：55～16：50　一般演題セッション4（教員）（教19-23）

17：10～18：00　科目別分科会

第4会場：保健医療学部棟 C305

14：50～15：55　一般演題セッション5（大学院）（院01-06）
15：55～17：10　一般演題セッション6（大学院）（院07-13）

17：10～18：00　科目別分科会

第5会場：保健医療学部棟 C203

14：50～15：55　一般演題セッション7（大学院）（院14-19）
15：55～17：00　一般演題セッション8（大学院）（院20-25）

17：10～18：00　科目別分科会

第6会場：保健医療学部棟 C207

14：50～15：55　一般演題セッション9（大学院）（院26-31）
15：55～17：00　一般演題セッション10（大学院）（院32-37）

17：10～18：00　科目別分科会

第7会場：保健医療学部棟 C208

14：50～15：55　一般演題セッション11（大学院）（院38-43）
15：55～17：00　一般演題セッション12（大学院）（院44-49）

17：10～18：00　科目別分科会

8月19日（金） 会場：埼玉医科大学 日高キャンパス

第1会場：創立30周年記念講堂 1階

12：10～13：10 ランチョンセミナー2

司会：佐藤 正夫（埼玉医科大学）

医学部卒前臨床教育における OSCE の現状と認定評価者養成
―実習前技能修得度評価の実施に向けて―

辻 美隆（埼玉医科大学 保健医療学部共通教育部門，医学教育センター）

13：20～15：00 ワークショップ

座長：野島 順三（山口大学）
水上 紀美江（湘央医学技術専門学校）

［ 臨地実習前技能修得到達度評価のレイアウト設計 ］

W-1 実習前技能修得到達度評価にむけた令和4年度における本学の計画
井上 聡子（東洋公衆衛生学院 臨床検査技術学科）

W-2 埼玉県立大学における臨地実習前臨床検査技能実習への取組みと現況
有竹 清夏（埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 検査技術科学専攻）

W-3 北里大学における実習前技能修得到達度評価の実施方法について
長塩 亮（北里大学 医療衛生学部 医療検査学科 臨床検査学）

W-3 外部評価にたえるレイアウト設計のための考え方－医学部 OSCE を例に
荒関 かやの（埼玉医科大学 医学部 医学教育学）

15：10～15：30 閉 会 式

優秀発表者表彰

大会長スピーチ 茅野 秀一（埼玉医科大学）
「つなげよう、ひろげよう、臨床検査学教育」

次期大会長挨拶 戸田 好信（天理医療大学）

閉会挨拶 理事長 坂本 秀生（一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会）

第2会場：保健医療学部棟 C301

10：00～11：05　一般演題セッション13（学部）（学01-06）
11：05～12：00　一般演題セッション14（学部）（学07-11）

第3会場：保健医療学部棟 C302

10：00～11：05　一般演題セッション15（学部）（学12-17）
11：05～12：00　一般演題セッション16（学部）（学18-22）

第4会場：保健医療学部棟 C305

10：00～11：05　一般演題セッション17（学部）（学23-28）
11：05～12：00　一般演題セッション18（学部）（学29-33）

第5会場：保健医療学部棟 C203

10：00～11：05　一般演題セッション19（学部）（学34-39）
11：05～12：00　一般演題セッション20（学部）（学40-44）

第6会場：保健医療学部棟 C207

10：00～11：05　一般演題セッション21（学部）（学45-50）
11：05～12：00　一般演題セッション22（学部）（学51-55）

創立30周年記念講堂 2F 講義室・保健医療学部棟 実習室 B205

12：30～14：30　学生向けプログラム

詳細はホームページをご覧ください。

一般演題（教員セッション） 8月18日（木） 埼玉医科大学 日高キャンパス

セッション1（教員）

14：50～15：55 第2会場：保健医療学部棟 C301

座長：高崎 昭彦（四日市看護医療大学）

教01 本校の臨地実習に向けた取り組みについて
～県学会企画「学生対象病院実習対策講演」を視聴して～
水上 紀美江 湘央医学技術専門学校 臨床検査技術学科

教02 本校における臨地実習前技能到達度評価に向けた取り組みについて
髙橋 裕治 湘央医学技術専門学校 臨床検査技術学科

教03 臨床検査技師教育における客観的臨床能力試験（OSCE）の実践報告について
沖野 久美子 北海道医療大学 医療技術学部 臨床検査学科

教04 新カリキュラム対応のための客観的能力試験（OSCE）導入の試み
鈴木 真紀子 四日市看護医療大学 看護医療学部 臨床検査学科

教05 臨地実習指導者講習会「教育指導技法」の開発
關谷 暁子 北陸大学 医療保健学部 医療技術学科

教06 臨地実習指導者講習会実施後アンケート結果について
中前 雅美 京都保健衛生専門学校 臨床検査学科

セッション2（教員）

15：55～17：00 第2会場：保健医療学部棟 C301

座長：中前 雅美（京都保健衛生専門学校）

教07 臨床検査技師教育における多職種連携教育のあり方
―文京学院大学での取り組み―
飯島 史朗 文京学院大学 保健医療技術学部

教08 在宅医療・訪問診療の過去・現在・未来
井越 尚子 女子栄養大学 栄養学部、保健栄養学科

教09 訪問看護ステーションにおける臨地実習導入の試み
鈴木 真紀子 四日市看護医療大学 看護医療学部 臨床検査学科

教10 栄養学を基盤とした臨床検査技師教育
福島 亜紀子 女子栄養大学 栄養学部 保健栄養学科 栄養科学専攻

教11 法医学領域における臨床検査技師の役割
鈴木 隆佳 修文大学 医療科学部 臨床検査学科

教12 子宮頸がん検診受診率向上を図るための講演の有効性についての検討
尾形 隆夫 静岡医療科学専門大学校

セッション3（教員）

14：50～15：55　第3会場：保健医療学部棟 C302

座長：栗原 由利子（東京工科大学）

教13 GADD34の機能解析

磯部 健一　修文大学 医療科学部 臨床検査学科

教14 非 RI 基質を用いた脂肪組織リパーゼ（ATGL）活性測定系の検討

村野 武義　東邦大学 理学部 臨床検査技師課程

教15 寄生虫カルタを取り入れた医動物学の取り組み

松村 隆弘　北陸大学 医療保健学部 医療技術学科

教16 コロナ禍における工夫した免疫検査学実習の一例

天川 雅夫　岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科

教17 教育現場における反応タイムコースモニタを利用した
異常検査データの解析演習

松下 誠　埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 検査技術科学専攻

教18 血球数算定実習の理解と興味をさらに深める試み
～異常検体の測定および運動負荷実験を通して～

水上 紀美江　湘央医学技術専門学校 臨床検査技術学科

セッション4（教員）

15：55～16：50　第3会場：保健医療学部棟 C302

座長：伊藤 恵子（国際医療専門学校）

教19 国家試験成績解析調査研究の取り組み

小野寺 利恵　山陽女子短期大学 臨床検査学科

教20 学習サポート制度　―文京学院大学での取り組み―

下垣 里河　文京学院大学 保健医療技術学部 臨床検査学科

教21 学内成績を用いた臨床検査技師国家試験点数の予測モデルに基づく学習指導

吉野 千代　久留米大学医学部附属臨床検査専門学校

教22 国家試験模擬試験受験効果を向上させるための、
自己採点システムの開発と運用

久保田 耕司　山陽女子短期大学 臨床検査学科

教23 臨床検査技師養成課程における
キャリア教育プログラムの開発と効果検証の試み

蓮沼 裕也　桐蔭横浜大学 医用工学部 生命医工学科

一般演題（大学院セッション） 8月18日（木） 埼玉医科大学 日高キャンパス

セッション5（大学院）

14：50～15：55 第4会場：保健医療学部棟 C305

座長：吉田 祥子（東京工科大学）

院01 子宮体部上皮性腫瘍および前駆病変における
DNA 複製関連タンパクの免疫組織化学および工学的解析研究

池端 光窯 信州大学大学院 医学系研究科 保健学専攻

院02 細胞診標本において好中球細胞外トラップ（NETs）は
cannonball 形成や線維状構造物に関与するのか？

三浦 香里 藤田医科大学 保健学研究科 臨床検査学領域 形態・細胞機能解析学分野

院03 多重 FISH を用いた Clue cell を形成する各種細菌の同定
～ ***Lactobacillus iners*** は clue cell 形成に関与するか～

原田 隼兵 藤田医科大学大学院 保健学研究科

院04 海馬神経細胞の樹状突起の三次元微細構造解析を可能にする
パラフィン切片を用いた光－電子相関顕微鏡法の開発

岡崎 将門 藤田医科大学大学院 保健学研究科 形態・細胞機能解析学分野

院05 神経線維腫腫瘍増殖における $NF1^{+/-}$ マスト細胞の機能解析

山田 典明 山口大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体情報検査学領域

院06 ラット中枢神経組織の Papanicolaou 染色における染色性の解析の試み

川田 真衣 埼玉医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 生体機能科学分野

セッション6（大学院）

15：55～17：10 第4会場：保健医療学部棟 C305

座長：古閑 公治（熊本保健科学大学）

院07 等容弛緩期における相対的な心室内圧較差と拡張機能の関係
～ Vector Flow Mapping を用いた検討～

津田 恵里花 藤田医科大学大学院 保健学研究科

院08 動脈硬化の早期診断に関する検討 －プラーク形成の予測は可能か？－

藤田 優 藤田医科大学大学院 保健学研究科

院09 地域在住高齢者の24時間心電図

丹羽 晴香 中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻

院10 卵胞期及び黄体期における運動介入が夜間睡眠と遠位 - 近位皮膚温に与える効果

伏見 もも 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科

院11 脳温管理装置試作機における脳代謝推定アルゴリズム適用の検討

寺山 昌志 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 生体機能システム分野

院12 足関節捻挫の診断精度向上につなげる骨形態解析
－解剖学的解析と超音波検査での検証
東谷 瑞希 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 形態・生体情報解析学分野

院13 大学における地域健康増進活動
武田 祥也 中部大学大学院 生命健康科学研究科 生命医科学専攻

セッション7（大学院）

14：50～15：55 第5会場：保健医療学部棟 C203

座長：齋藤 良一（東京医科歯科大学）

院14 カラス糞便由来 *Escherichia coli* の遺伝系統と薬剤耐性解析
坂口 かなえ 信州大学大学院 医学系研究科

院15 市街地のカラス糞便から検出されたヒト希少感染症病原体の解析
瀧澤 志野 信州大学大学院 医学系研究科

院16 医療施設下水における薬剤耐性 *Escherichia coli* のダイナミックな経時的変化
田邊 瑞来 信州大学大学院 医学系研究科

院17 市中下水及び医療施設下水における
カルバペネマーゼ産生グラム陰性桿菌の長期分子疫学調査
伝田 智宏 信州大学大学院 医学系研究科

院18 関東の臨床および病院排水から得られた IMP-1 産生 *Enterobacter* 属の比較解析
石村 菜穂子 北里大学大学院 医療系研究科

院19 埼玉県下水由来および臨床由来 ESBL 産生 *Escherichia coli* の分子疫学的解析
山本 美紅 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 健康福祉科学専修

セッション8（大学院）

15：55～17：00 第5会場：保健医療学部棟 C203

座長：大瀧 博文（関西医療大学）

院20 血液培養から分離された表皮ブドウ球菌の薬剤感受性に関する調査
伊藤 由将 文京学院大学大学院 保健医療科学研究科

院21 血液培養由来表皮ブドウ球菌のバイオフィルム形成能の調査
鈴木 諒 文京学院大学大学院 保健医療科学研究科

院22 *Staphylococcus aureus* における臨床分離株間でのアドヘシン（MSCRAMM）
保有率についての調査
高倉 穂佳 文京学院大学 保健医療科学研究科

院23 緑茶のペットボトル飲料を飲んだ際の口腔からの逆流について：
残留・生存細菌の解析
賀来 ながら 新潟大学 大学院保健学研究科 臨床化学研究室

院24 エタノール消毒前後の手指およびスマホ画面から検出される
細菌の分子生物学的解析

高橋 七瀬 新潟大学 大学院保健学研究科 臨床化学研究室

院25 インドールによる *Chlamydia trachomatis* の
ヒト上皮系株化細胞 HEp-2 細胞内での増殖抑制機構について：
芳香族炭化水素受容体の関与について

張 賽成 北海道大学保健科学研究院

セッション9（大学院）

14：50～15：55 第6会場：保健医療学部棟 C207

座長：中島 一敏（大東文化大学）

院26 乾燥した物質表面の温度・湿度制御はヒト病原細菌の生存抑制に有用か
～高頻度接触面を介した医療関連感染を減らすために～

今野 綾乃 北海道大学大学院 保健科学研究院

院27 土壌細菌は環境因子の変動に伴い本当に空気中に舞い上がり浮遊するのか：
生菌回収用自作エアサンプラーを用いた野外調査の試み

森 沙彩 北海道大学大学院保健科学院

院28 既存薬ライブラリーのスクリーニングから探る
病原性クラミジアが感染細胞内で利用する新たなシグナル伝達系について

李 睿語 北海道大学 大学院 保健科学研究院

院29 iPS 由来心筋細胞を用いた心筋炎モデルのウイルス増殖性評価

福住 悠太朗 北里大学大学院 医療系研究科 環境医科学群 環境微生物学

院30 TMPRSS2 遺伝子欠損マウス連続継代による季節性インフルエンザウイルスの
HA 変異とウイルス学的性状変化

茂木 祐李香 北里大学大学院 医療系研究科 環境医科学群 環境微生物学

院31 高齢患者由来侵襲性ペニシリン低感受性 B 群レンサ球菌の
病原性・薬剤耐性に関わるゲノム特性

小出 将太 信州大学大学院 総合医理工学研究科

セッション10（大学院）

15：55～17：00 第6会場：保健医療学部棟 C207

座長：只野 智昭（大東文化大学）

院32 遺伝性パーキンソン病原因分子 LRRK2 の疾患特異的変異が
ミクログリアに及ぼす影響の解析

樋代 理子 北里大学大学院 医療系研究科 細胞免疫学

院33 アミロイドβ脳室内投与および熱ショックタンパク質発現誘導による
マウスうつ様行動の変化

足立 陸 岡山理科大学大学院 理学研究科 臨床生命科学専攻

院34 IgG 経鼻投与および Fab 断片腹腔内投与による脳内透過量の解析
野田 拓弥　岡山理科大学大学院 理学研究科 臨床生命科学専攻

院35 アレルギー性鼻炎における熱ショックタンパク質の関与
山城 茉唯　岡山理科大学大学院 理学研究科 臨床生命科学専攻

院36 *Clostridium perfringens* のフィブロネクチン結合タンパク質 FbpD の機能
森本 晃平　岡山理科大学大学院 理学研究科 臨床生命科学科

院37 CK-MB 活性測定は CK-B 活性の2倍ではない
渡辺 駿太　埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 健康福祉科学専修

セッション11（大学院）
14：50～15：55　第7会場：保健医療学部棟 C208

座長：林 由里子（群馬パース大学）

院38 抗リン脂質抗体症候群の病態における抗リン脂質抗体と酸化ストレスの関与
藤原 沙弥　山口大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体情報検査学領域

院39 抗リン脂質抗体による炎症性細胞増幅作用
石丸 春奈　山口大学大学院 医学系研究科 生体情報検査学

院40 新たな抗リン脂質抗体 ELISA の確立と臨床的有用性の検証
鍵谷 彩恵　山口大学大学院 医学系研究科 生体情報検査学

院41 相対的酸化ストレス度を用いた未病指標の開発
鎌田 理緒　山口大学大学院 医学系研究科 保健学専攻

院42 直接経口抗凝固薬 rivaroxaban は交差混合試験理解のための凝固因子インヒビター模擬検体として有用である
荒尾 ほほみ　熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科 保健科学専攻 臨床検査領域

院43 酪酸菌代謝産物によるヒト末梢血単核球細胞における制御性 T 細胞の分化誘導の検討
志賀 亮介　文京学院大学 保健医療科学研究科 生化学研究室

セッション12（大学院）
15：55～17：00　第7会場：保健医療学部棟 C208

座長：大川 龍之介（東京医科歯科大学）

院44 *Clostridioides difficile* 毒素はヒト白血病細胞の細胞周期障害を起こす
小野塚 大夢　東京工科大学大学院 医療技術学研究科 臨床検査学専攻

院45 細胞外基質分解酵素を標的とした変形性関節症の新たな治療候補化合物
中野 愛梨　岡山大学大学院保健学研究科

院46 パイロシークエンス法を用いた *IL4* 遺伝子 -48CpG のメチル化率測定系の確立

松井 亜未　大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体病態情報科学講座

院47 肝線維化初期バイオマーカーとしての血清中 miRNA の探索

松本 佳菜　弘前大学 大学院保健学研究科 生体検査科学領域

院48 母乳と新生児口腔内細菌叢との関連：網羅的・分子生物学的プロファイリング

涌井 杏奈　新潟大学 大学院保健学研究科 臨床化学研究室

院49 プロスタグランジン E2 生合成系に着目した乾癬様病態モデルマウスの病態解析

日置 優花　北里大学 医療衛生学部 薬理学

一般演題（学部生セッション） 8月19日（金） 埼玉医科大学 日高キャンパス

セッション13（学部生）

10：00～11：05 第2会場：保健医療学部棟 C301

座長：木村 文一（信州大学）

学01 子宮内膜漿液性癌における ER, PR, p53, IMP3, PTEN, ARID1A の免疫組織化学染色による発現の意義

徳田 梢 弘前大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

学02 子宮内膜類内膜癌におけるミスマッチ修復機構に関与する因子の免疫組織化学染色の意義

小川 奈保 弘前大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

学03 病理組織標本作製作製自動化へ向けた薄切可能な包埋カセットの開発と実用化への検討

八田 桃佳 天理医療大学 医療学部 臨床検査学科

学04 鉄ヘマトキシリン液の保存温度と核の染色性の関係

川村 航生 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学05 線維腺腫、乳管内乳頭腫、浸潤性乳管癌を鑑別するための集塊核配列不整解析法の有用性

加藤 未歩 弘前大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻

学06 浸潤性乳管癌硬性型と浸潤性小葉癌の鑑別のためのほつれ解析法を用いた出現様式評価の有用性

大谷 実央 弘前大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻

セッション14（学部生）

11：05～12：00 第2会場：保健医療学部棟 C301

座長：関 貴行（日本医療科学大学）

学07 軸索誘導因子 netrin-1 を標的とした新規大腸癌バイオマーカーの開発

松崎 実歩 広島国際大学 保健医療学部 医療技術学科 臨床検査学専攻

学08 大腸癌における netrin-1 遺伝子のエピジェネティック制御解析

鈴川 萌 広島国際大学 保健医療学部 医療技術学科 臨床検査学専攻

学09 肝細胞癌におけるグルタミン代謝経路および mTOR 経路の複合遮断による抗癌作用

久保田 野々 麻布大学 生命・環境科学部 臨床検査技術学科 病理学研究室

学10 GeA-69 を利用した PARP14 阻害および関連因子阻害における抗癌作用の有用性

長浜 優衣 麻布大学 生命・環境科学部 臨床検査技術学科

学11 Gefitinib 耐性肺腺癌細胞における形質膜シアリダーゼの発現上昇とその生理学的意義

粕谷 真輝 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション15（学部生） 10：00～11：05 第3会場：保健医療学部棟 C302

座長：瀧上 周（杏林大学）

学12 難病・進行性骨化性線維異形成症における病的骨化が起きやすい運動器の解析
齋藤 柊斗 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学13 筋組織の種類に着目した難病・進行性骨化性線維異形成症における病的骨化の組織学的解析
清水 萌花 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学14 筋肥大抑制因子 Myostatin による骨格筋量調節シグナルの活性化メカニズムの解析
鈴木 皓也 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学15 生後発達期大脳白質における髄鞘機能異常に反応するミクログリアについて
渡辺 桜 新潟大学 医学部 保健学科

学16 ヒト褐色脂肪組織（BAT）における GDF15 の発現～新たなバイオマーカーの可能性～
井上 栞杏 東京医科歯科大学 医学部 保健衛生学科

学17 マウスの社会的序列形成、維持に関わる神経機構の解析
川浪 温大 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション16（学部生） 11：05～12：00 第3会場：保健医療学部棟 C302

座長：目黒 玲子（新潟大学）

学18 骨髄異形成症候群の赤芽球における CD71 とメカノトランスダクション蛋白 PIEZO1 の共発現
笹川 魁斗 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学19 共役転写因子 Smad4 が脂肪細胞分化時において発現量に影響を与える RNA の探索
関口 奈未 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学20 骨芽細胞分化時に共役転写因子 Smad4 が発現量の変化を与える RNA の探索
竹村 歩莉 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学21 骨芽細胞分化誘導後、初期に発現変動するマイクロ RNA の同定
遠井 天音 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学22 脂肪細胞分化誘導後初期に発現変動するマイクロ RNA の同定
鈴木 理歩子 埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション17（学部生）

10：00～11：05　第4会場：保健医療学部棟 C305

座長：伊藤 さやか（埼玉県立大学）

学23 新型コロナウイルス感染やワクチン接種における粘膜免疫応答の解析

井上 和奏　東京工科大学 医療保健学部 臨床検査学科

学24 SARS-CoV-2のワクチンおよび感染による免疫効果とその持続性の検討

遠藤 聡子　東京工科大学 医療保健学部 臨床検査学科

学25 オープンリソース画像解析ソフトウェア CellProfiler を用いた免疫担当細胞における貪食能解析ツールの開発

小野寺 香奈　北里大学 医療衛生学部 免疫学Ⅱ

学26 抗 DNA 抗体は生きている好中球の核に入る

小森 恵美　つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科

学27 固相化リポソームゲルビーズ法によるリン脂質引き抜き能測定

橋本 大知　東京医科歯科大学 医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻

学28 核酸クロマト法を使用した梅毒検出のための POCT の検証

仲 琳央　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション18（学部生）

11：05～12：00　第4会場：保健医療学部棟 C305

座長：八巻 明子（杏林大学）

学29 血漿および超低比重リポタンパク中トリグリセライド被水解率評価法の検討

染谷 優和　東京医科歯科大学 医学部 保健衛生学科 検査技術科学専攻

学30 遊離コリンの変動からみた血清の室温保存中の内因性グリセロール未消去法トリグリセライド値の上昇に関する検討

内田 陸　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学31 1,1-diphenyl-2-picrylhydrazyl（DPPH）を用いた各種血液検体の抗酸化能測定の臨床応用に向けた試み

大熊 彩花　東京医科歯科大学 医学部 保健衛生学科 検査技術学専攻

学32 絶食 - 再摂食に対する応答機能の解明に向けた実験モデルの構築
―その1・血清生化学的検討―

山﨑 健人　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学33 絶食 - 再摂食に対する応答機能の解明に向けた実験モデルの構築
―その2・組織学的検討―

山口 拓　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション19（学部生）

10：00～11：05　第5会場：保健医療学部棟 C203

座長：山口 博之（北海道大学）

学34 埼玉医科大学病院における *Mycobacterium abscessus* complex（MABC）の解析；第一報　菌種分離情報

田端 亜美　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学35 致死線量被ばくマウスにおける敗血症リスクと腸内細菌叢の生死の検討

菅原 直央　弘前大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

学36 Prime Editing とウイルスベクターを用いたゲノム編集の高効率化

大町 竜羽　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学37 ニューモシスチス肺炎診断における超高速 PCR GeneSoC® の有用性

早苗 海斗　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学38 離島で暮らす高齢者における睡眠と生活習慣や健康感との関連の検討

山崎 駿介　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学39 感染予防に対する意識調査　―学生視点から―

松崎 菜央　群馬医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学専攻

セッション20（学部生）

11：05～12：00　第5会場：保健医療学部棟 C203

座長：市野 直浩（藤田医科大学）

学40 PC12細胞でのドーパミン分泌に対するオキシトシンの作用

久我 優佳　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学41 肺拡散能検査（DLco）における死腔洗い出し量の決定方法

高柳 弘夢　天理医療大学 医療学部 臨床検査学科

学42 Duchenne 型筋ジストロフィーにおける心電図の経年的変化と正常値との比較について

柳谷 実里　長浜バイオ大学 フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学コース

学43 デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の将来的な心機能低下の予測に心電図 R 波を用いる有用性

森地 祥太郎　長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部 フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学コース

学44 腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術（EVAR）後のエンドリークの評価―超音波検査と造影 CT による比較検討―

大谷 旭　天理医療大学 医療学部 臨床検査学科

セッション21（学部生）

10：00～11：05　第6会場：保健医療学部棟 C207

座長：關谷 暁子（北陸大学）

学45 細胞診デジタル学習コンテンツの作成
藤井 奎称　東京医科歯科大学 分子病理検査学分野

学46 臨床検査技師 AI 教育のためのクラウドコンピューター環境構築
太田 絵理　東京医科歯科大学 呼吸器・神経系解析学

学47 360° カメラで撮影した実習デモンストレーション動画に関する有用性の評価
逸見 孝　つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科

学48 本学男子学生における月経理解度と対応についての調査
佐山 真由　静岡医療科学専門大学校 医学検査学科

学49 保存条件の違いによるリンパ球の細胞変性に関する検討
星野 菜々子　静岡医療科学専門大学校 医学検査学科

学50 マザー・テレサの思想
山田 歩夢　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

セッション22（学部生）

11：05～12：00　第6会場：保健医療学部棟 C207

座長：福島 亜紀子（女子栄養大学）

学51 胆道閉鎖モデルラットの作製
松野 晃子　岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科

学52 アルコールおよびカフェインの代謝に関与する遺伝子型の解析
諸熊 啓人　埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科

学53 メチル化カテキンによるがん細胞の増殖抑制効果
星野 隆正　東京工科大学 医療保健学部 臨床検査学科

学54 がん細胞の増殖における大豆イソフラボンの効果
綾部 優奈　東京工科大学 医療保健学部 臨床検査学科

学55 法医科学捜査における血痕人獣鑑別試験の影響因子の検討
西村 梨緒　岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科

基調講演

動き出した新カリキュラム

司会：茅野 秀一（埼玉医科大学）

演者：坂本 秀生（一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会 理事長、
神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科）

第1会場：記念講堂 1階

8月18日（木） 11：05～11：50

基調講演

動き出した新カリキュラム

坂本 秀生

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会 理事長、
神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科

臨床検査技師の卒前教育として、新カリキュラムが2022年入学者から開始された。改正に至る詳細は厚生労働省が2019年12月から設けた「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会（以後検討会）」の議事録および報告書に記載がある。検討会では「国民の医療ニーズ増大と多様化、チーム医療の推進による業務の拡大、新検査項目及び検査機器の高度化で臨床検査技師を取り巻く環境の変化に対応するため、臨床検査技師の質の向上が求められている」と、大きな目的が理解できる。検討会では指定校と科目承認校の教育内容水準を同等にすることを確認し、まずは指定校対象の指定規則およびガイドラインの改正、その後に科目承認校の教育内容を指定校と同等になるよう審議した。

指定規則の改正に沿い告示科目の改正がなされたことから、指定規則の新旧対比がカリキュラム改正の特徴を理解しやすい。指定規則での単位数は95単位から102単位と7単位増加した。臨地実習は5単位増えただけでなく、3単位以上は生理学的検査を行うこと、学生が実施すべき事項、見学すべき事項も定められ、臨地実習前に行う技能修得到達度評価も1単位が必須となった。学内教育で増えた単位も、臨地実習実習で生理学的検査の3単位必須に対応できるよう生理学の1単位増、臨床現場にて検査結果から病態をより理解できるよう病態学の1単位が増加追加されたと理解できる。また、臨地実習実習では医療安全が重要であることから、検査総合管理学の一部として扱っていた医療安全の充実化を明確に出来るよう、1単位を医療安全管理へ含め2単位とした。

上記から、新カリキュラムへの改正では臨地実習および、臨地実習へ送り出す前の学内教育を充実したと理解できる。当日は「動き出した新カリキュラム」に関し、改正に至った背景。それに対応できるいよう各校が意識して取り組むことを検討会へ参加した立場からお伝えしたい。

一 般 演 題

（教員セッション）

教01 本校の臨地実習に向けた取り組みについて ～県学会企画「学生対象病院実習対策講演」を視聴して～

○水上 紀美江（みずかみ きみえ）、渡辺 聡、髙橋 裕治、平井 かをり、内田 俊一、眞喜志 俊彦、伊藤 優伽、勝又 修、高橋 秀之、稲福 全人
湘央医学技術専門学校 臨床検査技術学科

【はじめに】本校では1年次は臨床検査部見学、2年次は臨地実習を終えた3年生による「臨地実習報告会」への参加、神奈川県医学検査学会（県学会）企画「学生対象病院実習対策講演（対策講演）」の受講、3年次は臨地実習前実技試験を実施している。いずれも臨地実習前に臨床検査の現場を知る取り組みとして活用している。特に2年次の対策講演は学生の不安を軽減させ、臨地実習の概要を理解する取り組みとなっており、この対策講演が学生に与えた効果について報告する。

【実施内容】対策講演は令和元年から県学会企画として実施され、2年次に全員が参加している。その内容は「社会人としての心構え」「患者接遇」「院内感染対策」「医療安全」「実習で何を学んで欲しいか」という臨地実習前の学生に対して非常に適した内容となっており、実際に病院に勤務する現役技師が現場を思い浮かべながら実践につながるよう講義頂いている。

コロナ禍の令和2年度に入学した学生は対面授業や実習が制限される中で始まり、検査部見学も実施できない状況であった。2年次はようやく例年通りの活動が可能となり令和3年の年度末からオンデマンドではあるが対策講演を視聴した。その後、対策講演に関するアンケートを実施した。

【結果と考察】臨地実習に対して多くの学生は様々な不安を感じていたが、視聴後にその不安が「解消された」「少し解消された」と半数以上が回答した。興味をもった内容は「実習で何を学んでほしいか」を最も多く回答し、「挨拶の大切さ」「医療事故・医療過誤の重大性」の意識が高まったと回答する学生が多かった。

対策講演は臨地実習前の学生に対して効果的であるだけでなく、実習施設にとって不評な学生の態度を教育施設側も知る機会となっている。そしてこの対策講演は次世代の臨床検査を担う人材育成を重要な任務と受け止め、指導担当者を育成することも重要課題として企画されている。この「現場の声」を聴くことは実習施設と教育施設の協働にかかせず、充実した臨地実習となるよう今後も継続したいと考えている。

【謝辞】この県学会企画を実施頂いた神奈川県臨床検査技師会企画委員会の皆様に深く御礼申し上げます。

教02 本校における臨地実習前技能到達度評価に向けた取り組みについて

○髙橋 裕治（たかはし ゆうじ）、水上 紀美江、渡辺 聡、平井 かをり、内田 俊一、眞喜志 俊彦、石田 博昭、勝又 修、高橋 秀之、稲福 全人
湘央医学技術専門学校 臨床検査技術学科

【はじめに】本校は2015年度より臨地実習前の3年生を対象として臨地実習前実技試験を実施しているが、2022年度入学生から新カリキュラムへの移行に伴い、2024年の3年生において「臨地実習前技能実習」の科目が追加され、当該科目の科目試験として「臨地実習到達度評価」を実施する予定である。ここでは本校の「臨地実習前技能到達度評価」に向けた取り組みについて報告する。

【実施内容】2021年度の臨地実習前実技試験では、①輸血検査（ABO・Rh 血液型検査、クロスマッチ）、②Gram 染色検査、③形態検査、④標準12誘導心電図検査、⑤生化学検査を実施した。2022年度は形態検査、生化学検査を削除し、その代わりに臨地実習ガイドライン2021において「必ず実施させる行為」に該当する尿定性検査、血液塗抹標本作成、また実習に必要なピペット操作、各検査項目に適した採血管の選択など基本操作に重点を置いた試験を実施した。さらに臨地実習に際しての接遇のひとつである身だしなみの評価も追加した。全ての試験が終了した後、学生が修正すべき点をフィードバックし、アンケートを実施した。

【結果・考察】アンケート結果から今回の試験全体を通して多く学生が臨地実習前に自身のできていない部分が分かり、手技の確認ができて良かったと回答した。中でも外部講師を評価者に招いた心電図検査では、半数以上の学生が「緊張した」と回答し、80% 以上の学生が「臨地実習前に手技の確認が出来て良かった」と回答した。今回からの試みである「身だしなみ」については事前の授業にて髪型・服装などの注意点の説明はあったものの、評価直後に問題点を指摘されたかったと回答した学生が25% いた。また、いくつかの試験項目で「自身がついた」という回答が得られたが、全体としては「不安が増した」と回答する学生が40% 以上いたことから、今後、事前練習を強化し冷静に作業に臨める内容にする必要性があると考える。今後は試験前の練習内容や試験時間、内容の精査をさらに行っていきたい。

一 般 演 題

（大学院セッション）

院01 子宮体部上皮性腫瘍および前駆病変における DNA 複製関連タンパクの免疫組織化学および工学的解析研究

○池端 光窯（いけはた こうよう）[1)]、浦田 巧[1)]、石井 恵子[2)]、木村 文一[3)]
1）信州大学大学院 医学系研究科 保健学専攻、2）岡谷市民病院 病理診断科、
3）信州大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻 病因・病態検査学領域

【背景・目的】先進国で近年増加傾向にある子宮体部上皮性腫瘍の約8割が類内膜癌であり、DNA 複製関連タンパクの過剰発現が報告されている。本研究では類内膜癌およびその前駆病変における DNA 複製関連タンパクの免疫組織化学的発現を検索し、腫瘍の予後因子として有効か、臨床病理学的因子と比較して評価を行なった。

【材料・方法】信州大学医学部附属病院にて、類内膜癌（高分化型；G1、中分化型；G2、低分化型；G3）およびその前駆病変（子宮内膜増殖症；TH、子宮内膜異型増殖症；AH）と診断された各20症例の組織標本を使用した。各症例に対し、cdc10-dependent transcript 1 protein（cdt1）、cell division cycle 6（cdc6）、minichromosome maintenance protein 7（MCM7）、cell division cycle 7（cdc7）、geminin 等の免疫組織化学的検索を行い、labeling index（LI）および optical density（OD）を算出した。さらに、LI と OD を用いて統計学的有意差検定や主成分分析、機械学習－判別分析を行った。

【結果】DNA 複製関連タンパクの LI および OD では cdc6、MCM7、cdc7、geminin および Ki67でそれぞれ有意差が認められた。MCM7の LI は筋層浸潤など多くの臨床病理学的因子との間で有意差を示した。判別分析では、TH と G3および AH と G3ではそれぞれ97.3% および97.4% を示した。主成分分析では、第1主成分の主成分負荷量が、TH と G1では cdc6が、AH では cdt1が、G2では cdc7が、G3では MCM7と cdc7がそれぞれ高値を示した。

【考察】MCM7および geminin は臨床病理学的因子と関連性を認め、予後予測の指標となり得ると思われた。主成分分析の結果から、類内膜癌およびその前駆病変では組織型、分化度によって腫瘍の増殖に関与する DNA 複製関連タンパクの関連性が異なる事が判明した。特に DNA 複製における抑制系タンパクである geminin では TH、AH、類内膜癌 G1から G3へ病変が進行するにつれ、徐々に異なる動態を示したことは興味深い。

院02 細胞診標本において好中球細胞外トラップ（NETs）は cannonball 形成や線維状構造物に関与するのか？

○三浦 香里（みうら かおり）[1)]、平山 将也[2)]、原田 隼兵[1)]、舟橋 正範[3)]、金子 千之[3)]、藤井 多久磨[4)]、堤 寛[5)]、安倍 雅人[2)]、塩竈 和也[2)]
1）藤田医科大学 保健学研究科 臨床検査学領域 形態・細胞機能解析学分野、2）藤田医科大学 医療科学部 形態・病理診断学分野、
3）ナゴヤ医学学術センター、4）藤田医科大学 医学部産婦人科学、5）つつみ病理診断科クリニック

【目的】好中球細胞外トラップ（NETs）は好中球から放出される線維状構造物である。炎症性細胞診標本では、炎症性背景とともに好中球の集簇像（cannonball）やヘマトキシリン好性の線維状構造物がしばしば観察される。これらの所見に NETs が関与しているのか、現時点では解明されておらず日常的には見過ごされ注目されていない。本研究では、炎症性婦人科 LBC 標本における好中球と NETs の相互関係を明らかにするための免疫組織化学的解析を行った。

【対象・方法】子宮頸部から採取した婦人科 LBC 標本（BD SurePath）29例を用いた。標本上の好中球を散在する群と集簇する群（cannonball）にそれぞれ分類した。クロマチン脱凝集タンパクである citrullinated histone H3（citH3）、好中球顆粒成分である myeloperoxidase（MPO）を用いて免疫染色を施行し、各群の好中球の citH3陽性率を算出した。線維状構造物は vital 型 NETs を除いた紡錘形～網目状の suicidal 型 NETs をパパニコロウ染色標本下で抽出し、上述した免疫染色を施行して各形状を分類した。

【結果】散在する好中球よりも、cannonball に多くの citH3陽性細胞が認められ、類円形の vital 型 NETs が大半を占めていた。散在する好中球数とその中に占める NETs 陽性率に相関は認められず、NETs の陽性率は標本間で大きくばらついた。cannonball の大きさと NETs の陽性率にも相関関係は確認できなかった。線維状構造物の形状には多様性が見られ、炎症の程度に関わらずほとんどが vital 型 NETs であり、線維状もしくは網状の suicidal 型 NETs は少数しか確認されなかった。

【考察】cannonball を形成している好中球の多くが NETs に陥っていることを明らかにした。Cannonball を形成する好中球同士の接着に suicidal 型 NETs の関与は確認されなかった。背景に散在する一見正常にみえる好中球の約5% も vital 型 NETs に陥っていることを見出し、さらに線維状構造物の一部が suicidal 型 NETs であることを証明することができた。炎症に伴い NETs の形状が類円形から線維状へと形態変化する様子をとらえることに成功し、本研究がこれまで見過ごされてきた背景所見を見直すきっかけとなり得る。

一 般 演 題

（学部セッション）

学01 子宮内膜漿液性癌における ER, PR, p53, IMP3, PTEN, ARID1A の免疫組織化学染色による発現の意義

○徳田 梢（とくだ こずえ）、小川 奈保、木立 あみ、堀江 香代、吉岡 治彦、渡邉 純
弘前大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

【はじめに】子宮内膜漿液性癌（漿液性癌）は子宮内膜癌全体のうち約10% 以下の頻度で見られ、正常萎縮内膜に高率で p53の変異が起こることにより漿液性子宮内膜上皮内癌を経て発症するとされている。漿液性癌は類内膜癌より予後が悪く、両者は類似した組織形態を示すため免疫染色による正確な鑑別診断が求められる。

【目的】漿液性癌における ER, PR, p53, IMP3, PTEN, ARID1A の発現を免疫組織化学染色にて検索し、その臨床病理学的意義について検討した。

【方法】弘前大学医学部附属病院にて2011年から2020年度までに外科的に摘出された漿液性癌10症例（ⅠA期：3症例、ⅠB期：1症例、Ⅱ期：1症例、ⅢA期：1症例、ⅢB期：2症例、ⅢC1期：1症例、ⅣB期：1症例）を対象とした。免疫組織化学染色は自動免疫染色装置にて実施し、Leica 社の BOND-Ⅲあるいは Ventana 社のベンチマークを用いた。免疫染色の評価は顕微鏡下で核または細胞質について行い、DAB の発色が陰性のものを（－）、陽性を（+）、強陽性を（++）とした。さらに病期（FIGO Stage 2008）毎における各因子の有意差検定をχ^2独立性の検定で解析し、P 値（上側確率）が0.05未満の場合を有意なものとして判断した。

【結果】各々の発現率として ER 陽性率は50%、PR 陽性率は70%、p53 強陽性率は100%、IMP3陽性率は100%、PTEN 陰性率は0%、ARID1A 陰性率は0% であった。有意差検定では、ER, PR, p53, IMP3, PTEN, ARID1A 全ての因子において病期間で有意な差が得られなかった。

【考察】ER, PR の発現率の低下、p53では過剰発現、IMP3の発現化、PTEN と ARID1A の発現保持は漿液性癌と類内膜癌の鑑別に有用であることが示唆された。さらに p53の過剰発現は病期の進行に関与しないことが示され、p53の変異が癌化の早期にドライバー遺伝子として関与していることが示唆された。また、各抗体の発現率にはばらつきがありどの組み合わせが最も診断的価値が高いかは確立されていないため、両者の鑑別に有用と考えられる抗体を単独ではなく複数含めたコンビネーションによる総合的な診断が必要であると考えられた。

学02 子宮内膜類内膜癌におけるミスマッチ修復機構に関与する因子の免疫組織化学染色の意義

○小川 奈保（おがわ なほ）、木立 あみ、徳田 梢、堀江 香代、吉岡 治彦、渡邉 純
弘前大学 医学部 保健学科 検査技術科学専攻

【はじめに】正常子宮内膜から前癌病変である子宮内膜異型増殖症を経て子宮内膜類内膜癌に至る多段階発癌説の過程においてミスマッチ修復機構の破綻が関与していると考えられている。ミスマッチ修復機構は DNA 複製時に生じた塩基のミスマッチを修復する DNA 修復機構の1つである。代表的なミスマッチ修復遺伝子には *MLH1*、*MSH2*、*MSH6*、*PMS2* があり、それぞれにコードされたタンパクが合成される。ミスマッチ修復遺伝子の異常によりミスマッチ修復タンパクの機能が損なわれると、ミスマッチによる DNA 複製エラーを修復することが出来ずに遺伝子異常が蓄積し、癌化に結びつくと考えられている。

【目的】子宮内膜類内膜癌におけるミスマッチ修復タンパク MLH1、MSH2、MSH6、PMS2の発現を免疫組織化学染色にて検索し、その臨床病理学的意義の検討を行った。

【対象・方法】弘前大学医学部附属病院にて2019～2021年に外科的に摘出された子宮内膜類内膜癌79例（Grade1：54例、Grade2：18例、Grade3：7例）を対象とした。免疫組織化学染色は、Leica 社の自動免疫染色装置 BOND-Ⅲにて実施した。染色の判定は核での DAB 発色の有無により陰性、陽性の2段階で実施した。Grade 毎における MLH1、MSH2、MSH6、PMS2の陰性頻度の差をχ^2独立性の検定で解析した。また、MLH1、MSH2、MSH6、PMS2と他の分子生物学的因子：ER、PR、p53、Her-2、PTEN、ARID1A、Ki-67との相関をそれぞれ Spearman の順位相関係数の検定で解析した。それぞれの検定で p 値が0.05未満の場合を有意なものとした。

【結 果】各 Grade において、MLH1、MSH2、MSH6、PMS2では有意差は認められなかった。各因子と他の分子生物学的因子との相関関係において、MLH1・PMS2間及び MSH2・MSH6間で正の相関が認められた。ER、PR など他の因子においては、有意な相関は認められなかった。

【考察】ミスマッチ修復タンパクの免疫組織化学染色における陰性化は腫瘍化以前からの早期に関与し、腫瘍の進展には関係していないことが示唆された。ミスマッチ修復機構において MLH1及び MSH2の非存在下では、それぞれ PMS2、MSH6が不安定化することにより、MLH1・PMS2間及び MLH2・MSH6間で正の相関が認められたと考えられた。

第16回日本臨床検査学教育学会学術大会抄録集

令和4年8月1日発行

編集責任者：大　会　長：茅野 秀一
実行委員長：佐藤 正夫
総括事務局：小野川 傑、山岸 敏之、黒田 真代、高橋 祐介
プログラム：飯野 望、村本 良三
設営・運営：小野 公嗣、内田 康子、水谷 諭史
渉外・広報：藤原 智徳、伴場 裕巳

事　務　局：埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科内
第16回日本臨床検査学教育学会学術大会 事務局
〒350-1241　埼玉県日高市山根1397-1
TEL：042-984-4801
E-mail：JAMTE16@saitama-med.ac.jp

出　　版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793　FAX：096-386-2025
https://secand.jp/